

第2回薬剤耐性(AMR)対策普及啓発活動表彰

小児病院における抗微生物薬適正使用の促進

東京都立小児総合医療センター

活動概要

東京都立小児総合医療センターでは、2011年より包括的な抗微生物薬適正使用プログラム(ASP, Antimicrobial Stewardship Program)を導入した。特定抗微生物薬の処方許可制と処方後監査、最小限の採用薬、院内の治療の標準化、血中濃度測定による抗菌薬投与設計、薬剤耐性モニタリング、抗微生物薬の使用量調査等を行ってきた。広域抗菌薬の適正使用化により、耐性菌、平均入院日数、感染症関連入院死亡率の減少を達成した。

活動内容

当院では2011年にASPを導入し、組織的に活動を行っている。

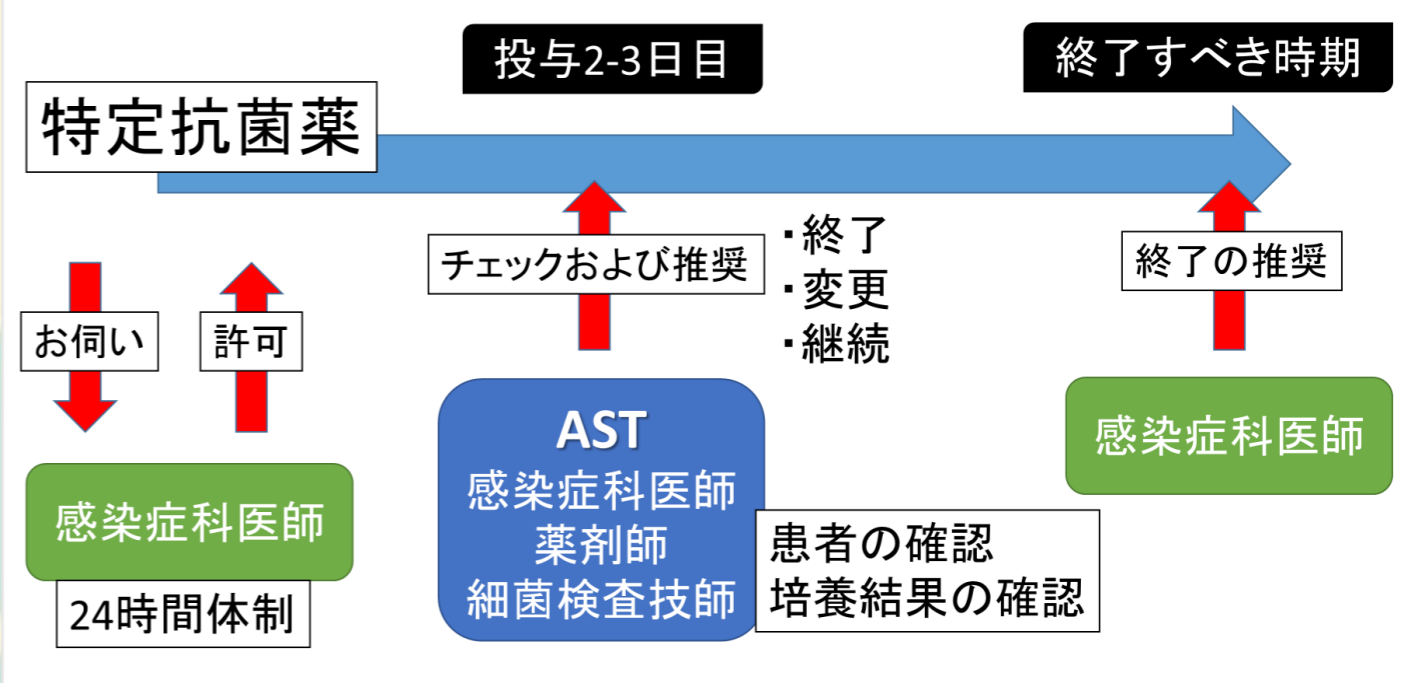
感染症科医によるコンサルテーション体制を整え、感染症が専門ではない医師からの診療相談にいつでも対応している。また、抗微生物薬の処方許可制および処方後監査を実施している。

細菌検査部では検査情報を適切に臨床現場にフィードバックし、治療に必要な検査は可能な限り迅速かつ正確に行う一方で、臨床的に不要と思われる細菌検査検体の提出を減らす努力を行っている。

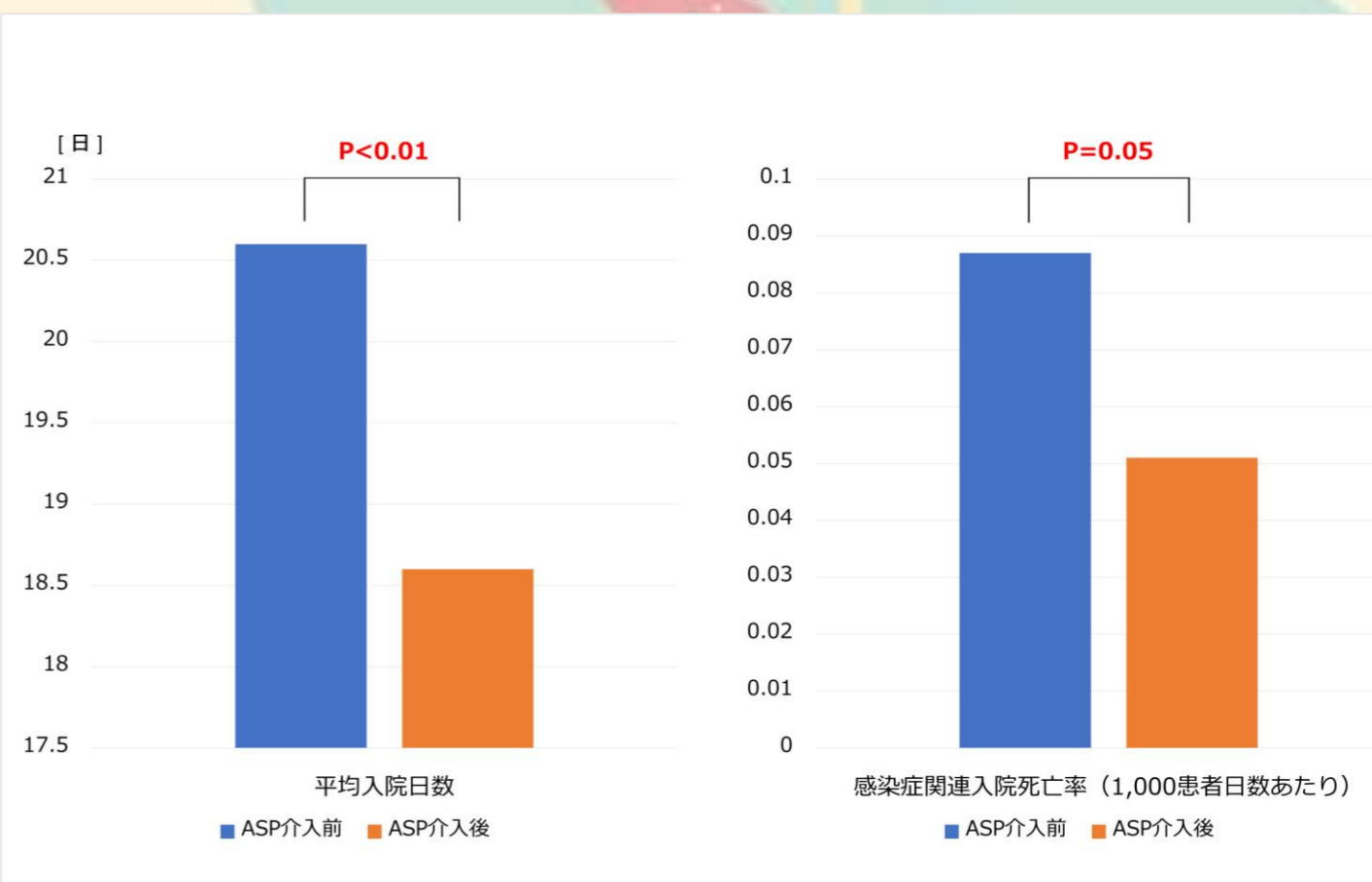
薬剤部では、電子カルテ端末で確認できる抗菌薬投与量の院内ガイドラインを作成し、適切な投与量で治療を行う手助けをしている。また、バンコマイシンやアミノグリコシド系抗菌薬などは、血中濃度を参考にコンピューターで投与設計をして、安全かつ効果的に治療が行える適切な投与量を主治医に推奨している。

地域の医療機関や地域住民に向けた公開講座の開催、抗菌薬適正使用のポスター作成、配布、展示などの広報活動にも力を入れており、様々な職種が協力し抗菌薬適正使用の啓発活動に取り組んでいる。

都立小児の処方前後介入：許可制と監査



当院の処方前後介入



ASPによる平均入院日数・感染症関連入院死亡率の減少

Y. Horikoshi, et al.
Int J Infect Dis. 2017 Nov;64:69-73.